

本校における合科的な指導の実践

(1年生の図工科を中心とした合科的な指導)

足利市立北郷小学校
学習指導法研究低学年班

1. 年間指導計画の見直し

本校では、学校課題として「自ら評価し、自ら学ぶ児童の育成」を目指して学習指導に取り組んでいる。

低学年の日々の学習指導の中で、この時期の児童の特性を考えたり、指導の効果面を反省したとき、本校の現行の合科的な指導の年間計画では、不十分な点や甘さが見られ、学校課題解決の上からも、指導計画や指導法の改善の必要性を強く感じた。

児童1人ひとりに、学校生活の楽しさを味わわせながら、「自ら評価し、自ら学ばせる」ためには、できるだけ児童の主体的な活動を重視し、教科の枠にとらわれない児童の実生活や経験取得に根ざした合科的な指導の改善が求められたのである。

そこで、本校では、学習指導法研究低学年班が中心となって、年間指導計画の見直しと、その改善に着手した。

2 指導計画の改善

(1) 指導計画改善の留意事項

ア 指導要領に示された各教科、道徳、領域等の各々の目標を見失なわないこと。

イ 学校課題解決のためのねらいに沿うこと。

ウ 低学年児童の学習活動の実態に沿うこと。

の3点に基づいて研究が進められた。また、合科的な指導の進め方については、

ア ある教科を中心にして、他教科等の目標や内容を意図的、計画的に関連づけていく方法。

イ いくつかの教科等を並列に置いて、そのねらいや内容に関連づけていく方法。

ウ それぞれの教科等の指導を進める途中で、関連する他教科等の教材を結びつけて、その教科の指導効果を高めていく方法。

などが考えられているが、本校では、アの立場を取ることにした。

(2) 中心教科の選定

合科的な指導の中心教科の選定に当たっては、低学年児童の特性や指導の効果性を配慮して検討を加えた。すなわち、児童の学習に対する興味・関心・意欲・持続性等を考えたり、教科間の共通する学習活動や、相乗的、補完的效果などを考えたりして、結局図工科を中心教科に置くことにした。

(3) 時数の扱い方

時数の扱い方については、

ア 児童の活動が学習の中心になるので、できるだけ学習活動が連続するように配慮し、通常は、1つの活動の時間を2時限連続とし、途中適宜休憩を入れるようにする。ただし、活動内容によっては1時限扱いの場合もあり得る。

イ 関連教科の時数は、 $\frac{1}{2}$ 時間を単位として扱う。

ウ 実施時数は、統計上整数になるよう配慮する。

以上の経過を経て、次のような年間指導計画をまとめた。

3. 図工科を中心とした合科的な指導の年間指導計画（1年生）

単 元 名	月	図工 時数	関 連 教 科			め あ て	備 考
			教 科	単 元 名	時数		
ともだちい っぱい	4	2	国 語	なかよしの き	0	○絵や文から想像した ことを自由に話し合う。 ○固定施設を使って楽 しく遊ぶ。	年間計画 4 月 第 4 週扱い
			体 育	ブランコ・ ジャングル ジム	0		
○せんせい	4	1	社 会	わたしたち の先生	1	○担任の先生は、クラ スの子どもたちの毎日 の学習が成り立つよう に、いろいろな働きを していることがわかる。	
つちあそび	5	2	理 科	雨ふり	0	○雨やその時の場面の 様子を調べる。	年間計画 5 月 第 1 週扱い
○なかよし こいのぼり	5	3	音 楽	こいのぼり	1	○季節感を味わい、楽 しく歌う。	
つないでつ ないで	6	2	学級会	おたのしみ 会	0	○みんなで仲よくやる。	年間計画 6 月 第 1 週扱い 年間計画 6 月 第 4 週扱い
○だんポー ルのみち	6	1	体 育	場所とり鬼	1	○楽しくだんボールの みちで遊ぶ。	
○長いかざ り	6	1	学級会	七夕かざり	1	○みんなで仲よく七夕 かざりをつくる。	

○うかべてあそぶ	7	2	理科	かぜでうごかす	2	○物を動かすものとして、かぜの働きに気づかせる。	年間計画7月第2週扱い
おってつくる	9	2	社会	みんなのき	0	○公園の使い方にきまりがあることを考える。	
うんどうをしている人	9	1	体育	器具	0	○手足の動きに気をつけて運動する。	
かみのけん	9	2	理科	虫さがし	0	○動く様子や特徴に気づかせる。	
だま			学級会	お楽しみ会 ゲーム遊び	0	○友だちのよいところをほめて、楽しく遊ぶ。	
どうぶつをつくる	10	2	国語	くじらぐも	0	○はっきりした声で発表する。	年間計画7月第2週扱い 年間計画9月第2週扱い
○大きなか	10	2	国語	大きなかぶ	1		
		2		おむすびころりん	1	○人物の動きや場面の様子をとらえる。	
のりもの	10	2	社会	みんなの安全	0	○通学路を観察し、安全のための施設が整えられていることに気づかせる。	
○ならんだならんだ	11	2	体育	折り返しリレー	0	○楽しく運動する。	年間計画11月第1週扱い
		1	算数	たし算<2>	1	○(1位数)+(1位数)でくり上がりのある場合の計算を理解する。	
○ともだちになったかいじゅう	11	2	国語	たぬきの糸車	1	○様子を思いうかべて場面の様子をとらえる。	年間計画11月第4週扱い

みたことし たこと	11	2	国 語	ころちん・ しゃぼんだ ま	0	○おもしろかったこと を書こう。	
○すきなど うぶつ	12	2	国 語	どうぶつの 赤ちゃん	1	○それぞれの動物の様 子や特徴を比較する。	年間計画12月 第3週扱い
		2	体 育	乗り物の模 倣	0	○乗り物や好きな動物 を模倣する。	
○かみコッ プで	2	2	理 科	ゴムで動か す	2	○創意工夫する楽しさ を味わわせる。	年間計画2月 第4週扱い
○げきのお めん	3	2	国 語	花いっぱい になあれ	2	○楽しいお話・お話づ くり	年間計画3月 第3週扱い
おどろいた こと	3	4	国 語	日記指導	0	○普段から感動したこ とをさがす。	

4. 実践研究

でき上った年間指導計画に基づいて、私たちの考えている合科的な指導の可否を問うため、実践授業を試みた。はじめは、関連教科として国語科を取り上げてみた。

まず、学習指導案作成に先立って、学習指導要領と教科書との関連に考察を加え、その結果を指導案に反映させることにした。

指導案に基く実践授業のあと、結果について討議を重ね、成果と今後の課題についてまとめた。以下順を追って紹介してみる。

第1学年 図画工作科学習指導案 合科的な指導 関連教科 国語科

(1) 題 材 名 かいじゅうとあそぼう

(2) 題材の達成目標

ア 身近な体験から空想し、かきながら想像を広げていく楽しさを味わい、のびのびと表現する。(感情・思考)

イ クレパスを使い、表現力を高める。(技能)

ウ 想像したこと、工夫したことがおはなしでき、ともだちと楽しく仲よく表現活動ができる。(関心・態度)

(3) 題材について

この題材では、子どもの想像を広げ、頭の中に浮んだ情景を場面として構想させ、表現さ

せようとする絵や本、聞いたお話を生かして、自分なりの空想の世界を持たせ、前後関係を考えた物語を想像させる。そして、その中からかきたい場面をその感じが表わせるよう工夫しながら表現させようとする。つまり、自分の好きな怪獣と出会い、どんな対話があって、どんな遊びをしたかという筋道立ったお話を想像させ、その一番楽しい場面をのびのびと表現させようとするものである。また、発表として、自分の絵を自分の考えたあらすじを述べながらみんなにみせ、考えたことを意味の通るお話として話させる。一方、友達の絵をみせてもらいながら、話し合うこともできるようにさせたい。情意面としては児童の作品、発表より児童の内面に持っている感情を取り入れる。

ここで、クラスの特徴をあげると次のようなことが言える。

お話の絵をかくのが、大好きであり、なにげない日常の遊びとして、とけこんでいる。しかし、それは自分の想像したものでなく、往々にして本の絵のまねだったり、漫画の一場面の写しであったりする。

一年生全体として、テレビの影響が強いのだが、クラスの児童は中でも漫画への関心が強く、考え方や絵のかき方まで影響を受けていることがうかがえる。

また、遊びの好みも、動的なものより静的なものへ片よりがちで、活発さがもう一つほしいところである。

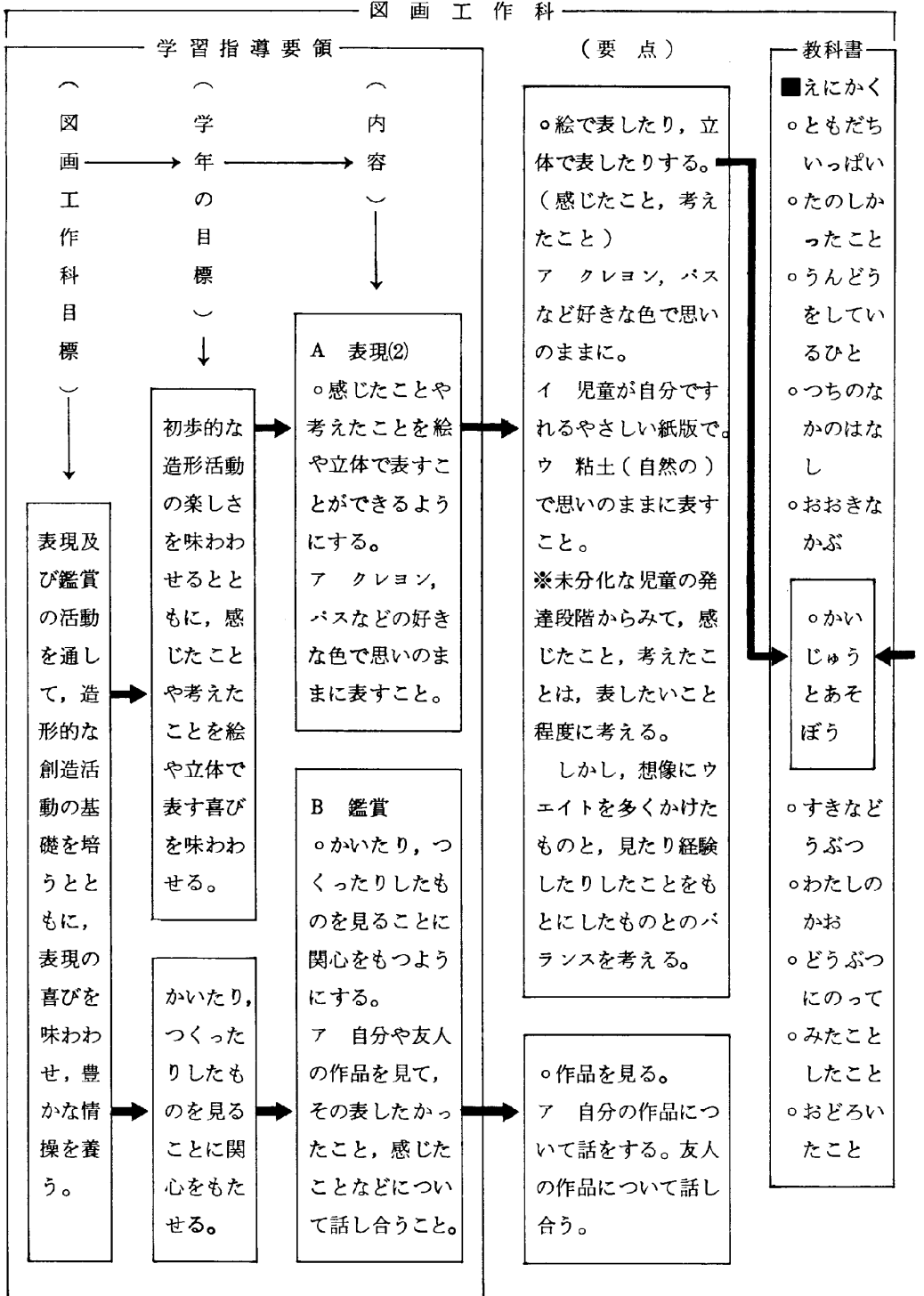
これらは、現代っ子の特徴とも言える。

しかし、お話の絵をかくのが好きであったり、友達の絵をみることに興味を持っているので、この題材には入りやすいだろうと思う。ただ、絵が漫画的にならないことや、想像が動画的な遊びの場面に向くよう心がけさせたい。

既製の絵やテレビにとらわれないのびのびとした絵をかかせ子どもたちの想像力や表現力を伸ばしたいと思う。

また、友達の前で、筋のわかる話し方のできる能力を養いたい。そして、自己中心的な学習から、友達の考えをよく聞き、仲よく話し合える態度へと育てていきたいと思う。

(4) 学習指導要領と教科書との関連



教科書

(要 点)

学 習 指 導 要 領

■下巻

- はっきりしたこえで
- おもしろかったことをかこう
- ことばのべんきょう
- ようすをおもいうかべて
- よくおもいだしてかこう
- おもしろいところは
- はじめてわかったこと
- こんなにながくかけた
- たのしいおはなし

○学習したことを能力として習熟させ、定着させ、さらに生活化を図り、児童の主体的、創造的な活動を十分に展開させる。

○児童1人ひとりの想像力を刺激し、みずみずしい創造的精神活動を豊かにし、発表させる。

○多様な表現活動を取り入れ、自分自身のテーマをより広く深めていくことを通して、思考力、認識力の向上につとめる。

(内 容)

(学 年 の 目 標)

(国 語 科 目 標)

言語事項 (1)

- 言語に関する事項
- 表現に関する事項
- 文及び文章の構成に関する事項
- 文字に関する事項
- 語句に関する事項
- 言葉使用に関する事項

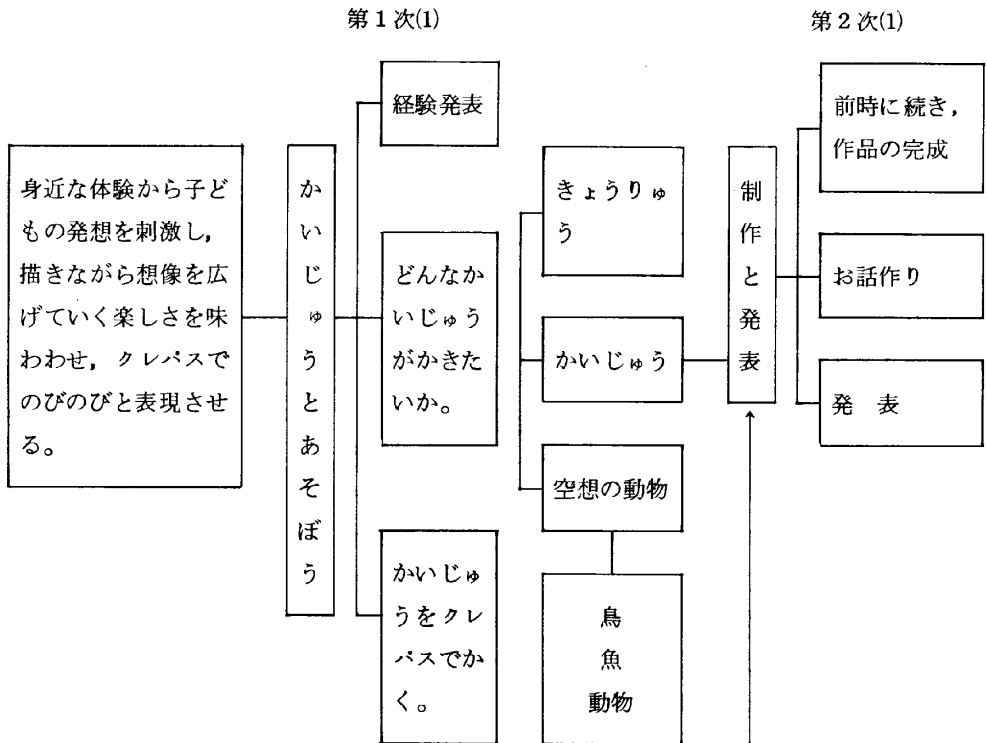
経験した事、身近な事柄などについて、簡単な文章を書いたり、話をしたりすることができるとともに、進んで表現しようとする態度を育てる。

国語を正確に理解し表現する能力を養うとともに、国語に対する関心を深め、言語感覚を養い、国語を尊重する態度を育てる。

言語事項 (2)

- 書写—表現—理解

(5) 指導内容と計画



たぬきの糸車

第1次 全文を読んで粗筋をとらえる。(3時間扱い)

(1)(2) 印象的な場面を絵にかく。

(3) 粗筋を話す。(3/3)

第2次 場面ごとに様子を思い浮かべながら読む。

第3次 他の民話を聞き、言葉の学習をする。

(6) 同和教育の視点

ア 想像力を発揮し、表現することにより、自主創造の精神を培う。

イ 友達の作品のよいところを認めあうことにより、よりよい人間関係をきずく。

(7) 本時の指導

ア 単元の目標

- 身近な体験から空想し、かきながら想像を広げていく楽しさを味わい、のびのびと表現する。(感情・思考)

- 想像したこと，工夫したことがおはなしでき，友達と楽しく仲よく表現活動ができる。

(関心・態度)

- 想像したことを簡単な文にし，それをもとに大きな声でおはなしができる。

(話す)関連教科 国語

イ 準 備

クレパス・画用紙・カセロボ・レコード・のり・作業用紙

ウ 展 開

過程	具体目標	学習活動	時間	資 料		予 想 される 反 応	指 導 上 の 留 意 点 同 和 教 育 と の 関 連	評 価 の 観 点 a = 方 法 b = 生 か し 方
				T	P			
つ か む ↓	1. 本時の学習内容を確認する。 ○表現意欲を持つ。	・本時の学習について知る。 ・場面を想像しながら，お話を聞く。	5分	・テープレコーダー ・レコード ・絵本 ・図鑑 ・写真 ・プラモデル	・画用紙 ・クレパス	・ああかいじゅうの勉強するの。 ・ぼくかいじゅう知っている。 ・本で見た。 ・図鑑で見た。 ・テレビで見たよ。	・かいじゅうに対する興味を，喚起させたい。 ・動的な遊びに思考が向くように誘導する。	(教) かこうとする意欲がわいたか。 a レコードを聴きながら話を聞く。 b 発表させる。
	2. かいじゅうと一緒に遊びたいことを，空想する。	・場面を思い出しながら，イメージを確かなものにする。	5分			・わたしは……しているところをかこう。	・周囲の情景についても想像させたい。	(教) かく場面が想像できたか。 a 手をあげさせる。 発表させる。

過程	具体目標	学習活動	時間	資料		予想される反応	指導上の留意点 同和教育との関連	評価の観点 a = 方法 b = 生かし方
				T	P			
↓ 見 通 す ↓ 表 す ↓	ることができ る。					<ul style="list-style-type: none"> ○すごい いかい じゅう だな。 かくぞ。 ・やっ ぱりか いじゅ うは、 大きい な。 ・こわ そうに かこう かな。 ・スキ ップし ている ところ をかこ う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分のイメ ージにあった絵を かかせるように おさえる。 	b 図鑑・写 真等を見せ る。
	3. さま ざまな かいじ ゅうを かくこ とがで きる。	<ul style="list-style-type: none"> ・画面い っぱいに かく。 (かく場 面を考え てかく。) 	35 分				<ul style="list-style-type: none"> ・彩色につい て アドバイスする。 	(教) 意欲をもつて 表現している か。 a 机間巡視 する。 b 個別指導 する。

過程	具体目標	学習活動	時間	資 料		予 想 される 反 応	指導上の留意点 同 和 教 育 と の 関 連	評 価 の 観 点 a = 方 法 b = 生 かし方
				T	P			
↓ 表 す ↓	4. 自 分の 絵を 完成 する。	•かきた しにより、 イメージ を広げ、 完成する。	10 分			<ul style="list-style-type: none"> •ワア、 できた ぞ。 •〇〇 ちゃん のかい じゅう は本物 みたい。 •もう すこし でき あがる ぞ。 	<ul style="list-style-type: none"> •最後まで、て いねいにかかせ る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block; margin: 5px;">同和</div> <ul style="list-style-type: none"> 作業のおくれ ている子どもに は、アドバイス してやる。 最後までがん ばらせる。 	<p>(教)</p> <p>絵が完成でき たか。</p> <p>a 机間巡視 する。</p> <p>b 個別指導 する。</p>
ふ り か え る	5. かい じゅう と遊ん だこと を、かん たん な文に かくこ とがで きる。	•かいじ ゅうとの お話をか く。	20 分	合科 (国語)	•の り		<ul style="list-style-type: none"> •国語科と関連 させることによ り、空想したお 話をかんな 文にかかせる。 •絵のうらにお 話をはらせる。 	<p>(教)</p> <p>ようすがよく わかるように お話づくりが できたか。</p> <p>a 机間巡視 する。</p> <p>b 個別指導 する。</p>
	6. 自 分の考 えたい かい じゅう のお話 を、絵 を見せ ながら			15 分		<ul style="list-style-type: none"> •よく かけて いるね。 •〇〇 さんじ ょうず だね。 	<ul style="list-style-type: none"> •絵を見せなが ら、大きい声で 発表させる。 •友達作品を 見ながら、よい ところに気づか せる。 	<p>(教)</p> <p>大きな声で 発表出来たか。</p> <p>a よくでき た児童をほ めてやる。</p>

過程	具体目標	学習活動	時間	資料		予想される反応	指導上の留意点 同和教育との関連	評価の観点 a=方法 b=生かし方
				T	P			
	発表することができる。					<ul style="list-style-type: none"> • 声が小さくて、きこえないな。 • おもしろかったな。 	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">同和</div> 友達の発表を最後まで聞く。	D 発表のよ くできない 児童には、 補足してや る。

5. 成果と今後の課題

合科的な授業を行ったときに、どのような効果が得られるか知るため、実践授業として、「しゃぼんだまとあそぼう」と「ともだちになったかいじゅう」を合科的に扱ってみた。

その結果について効果的であったと思える点を成果としてあげてみたい。

(1) 成 果

ア 年間計画について

- 合科的に扱える単元が明らかになり、また、教科ごとの目標や目あてが、より明らかになった。
- ねらう内容や学習活動の類似性などから合科的に扱うと効果的だと思われる単元を組み合わせるには、それぞれの教科の年間計画をかなり組みかえていかななくてはならないことがわかった。

(2) 実践授業（ともだちになったかいじゅう）について

- 導入で十分意欲を持たせ、絵をかかせた後、すぐそれを作文にさせることで、興味・関心の高まりが作文によく表われた。
- 自分の想像でかきあげた絵に、自分の創作作文を書かせたので、児童の作文への意欲が高められた。
- 絵と文との結びつきは、生活の中で親しんでいるので抵抗なく取り組めた。空想が絵と文に豊かに表われていた。
- 無理なく教科の区別がはっきりできて、両者がともに生かされた。二教科の相乗効果をあげることができた。

一方、今後の課題も含めて問題点について述べれば

(1) 問題点

ア 年間計画について

- 無理のない合科的な指導の計画を作ることは非常にむずかしく、厳密に言えば年間にごくわずかしかないこと。
- 普段の授業で何気なく使っている前時の内容を導入に用いるなどは、合科的な指導としてどう考えたらよいか。
- 合科的な学習の年間計画表の時数の表わし方をどのようにしたらわかりやすいか。
- 国語と図工の組み合わせがスムーズであったかどうか。

イ 実践授業について

- 国語で、お話づくりを子どもたちに要求するのは、三学期末まで待たないと、能力的に若干無理があること。これは、年間計画の上でも操作がむずかしい。
- 評価が、相乗効果を先行させがちになること。つまり、小さい視点をよせ集めて評価していくことが、不十分になりがちであること。

6. まとめ

合科的な扱いをしたとき、いくつかの教科の活動内容や学習内容がうまくマッチすれば、それは別々に指導するよりもはるかに効果が期待できるし、低学年の発達段階にもぴったりの授業展開ができる。無理な合科的な扱いをすれば結局両方とも指導しなおすことにもなる。

また、指導計画がうまくできたとしても、それに固執しないで弾力的に扱うように配慮することも必要であることがわかった。

常に教師が、児童の能力を的確にとらえて、うまく合科を取り入れていく努力をすることが大切であるとおもう。

これらに気づいたことも、統括してこの一年間の成果であると思っている。

評

低学年、特に第1学年は、小学校教育への入門期であり、遊びと学習は未分化の状態にあり、その生活には、教科や領域の枠の意識も明瞭ではないといわれています。

このような時期の児童の特性をおさえ、北郷小低学年班で積極的に合科的な指導に取り組まれたことはすばらしいと思います。

児童の学習に対する興味・関心・意欲・持続性等を考慮し、教科間の共通する学習活動や、相乗的、補完的效果をねらって、年間指導計画を見直し、図工科を中心とした合科的な指導の年間指導計画をまとめられ、それによる授業研究を実践されていることは、確かな学習指導改善の第一歩と考えます。

今後、実践の中でより確かな年間指導計画にさせていただくことを期待します。